



横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokiگاoka/>



私だけじゃなくて……

校長 仲川 美世子

国や民族、信じるものの違いによって起こるいざこざはいつまで続くのでしょうか。文化経済がどれだけ発展していてもそうでなくても昔からほぼ変わらない、「自己優位」な考えによって他を排しようとする一部の大人たちが引き起こす紛争のニュースを聞くたび、胸を痛める方も多いと思います。

と、横浜の一小学校の学校だよりの巻頭にはずいぶんと大きな話になりましたが、横浜では6年生になると、「今私にできること」というテーマでスピーチ原稿を書くという学習をもう20年以上続けています。見たり聞いたり読んだりしたさまざまな経験を踏まえて、身近なことから地球の未来に関わることまで考えて、日本の平和や国際平和のために今の自分にできることはないかと様々に思い巡らしたことを原稿にまとめ、互いに聞き合うのです。今年度の6年生も今よく話題になるようになったSDGsの17のテーマに沿った形で自分の考えをスピーチし合いました。

そして学校代表となった1組の荒井結宇さんが6月に青葉区内の小学校で行われたスピーチコンテストに参加し、そこでさらに区の代表に選ばれました。各区の代表はコロナ禍ということもあり、ビデオによる審査が行われ、18区の代表の中からなんとなんと市長賞に輝きました。世の中の状況が違えば、市長賞に選ばれるとニューヨークの国連本部に横浜市のピースメッセンジャーとして夏休みに派遣されるのが常でした。

全世界を震撼とさせている新型コロナ感染症は昨年度のスピーチコンテストを中止にし、今年度は海外派遣を中止にするという横浜の子どもたちの未来につながる経験の邪魔をしてくれたのですが、今年市長賞に選ばれた小学生2名、中学生2名はこれまたコロナ禍だからこそ広まったオンラインシステムによって、バーチャルでニューヨーク体験をするという機会に恵まれました。

荒井さんは横浜市教育委員会の導きによって、先週一週間、ニューヨークの国連本部の方々やユニセフの方々、国連国際学校（私立のインターナショナルスクール）、ニューヨーク日本人学校の先生や子どもたちと画面を通して交流したり、施設を案内してもらったりして、国際交流を果たしました。国連が世界で果たしている役割やユニセフの活動について教えていただいたり、国連国際学校では授業と一緒に受けたりすることも体験したようです。英語は通訳を介することもありましたが、自己紹介は英語ですることもあったようです。素晴らしい体験の詳細については本人からぜひ全校児童にも伝えてほしいところです。

そんな荒井さんがスピーチで訴えたことは、見た目や性別、その人の育ってきた環境などで人を決めつけてしまうことはとても残念であるということでした。世界のいろいろな国の人たちが参加するイベントにネット上で参加して実際に感じた、偏見や思い込みを取り払い、相手のことをよく知って仲良くすることができれば、世界中でみんなが自分らしさを発揮してよりよい世の中になっていくのではないかと、ぜひそうしていこう、という内容でした。

日常生活ではどうしても自分に関わる目の前のことにとらわれがちです。でも未来は目の前にあるのではなく、ずっとずっと先に大きく広がっています。「自分さえよければ」「自分にとっての好都合」「相手はこう考えているに違いない」「こういう人に違いない」と狭い考えにとらわれることなく、未来へ広く大きくつながる考え方を身につけられるようにしなければならぬと、荒井さんのスピーチと体験に教えられました。